

1. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成 20 年 3 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	0770102499		
法人名	医療法人社団 敬愛会		
事業所名	グルーホーム 敬愛シニアガーデン桜堤		
所在地	〒960-8164 福島県福島市八木田字井戸上50-1 (電 話) 024-545-6312		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなのビル302号室		
訪問調査日	平成21年2月6日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】（平成 20 年 12 月 25 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	15 人

（2）建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての ～ 1 階部分		

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有 (円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

（4）利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名
要介護 3	8 名	要介護 4	2 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 87.7 歳	最低 75 歳	最高 101 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	福島西部病院 福島南循環器科病院		
---------	------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は荒川桜堤河川公園の近く吾妻山を望む自然豊かな環境にあり、田園に囲まれている。町内会に加入し、広報誌を地域に配布するなどして、事業所の情報を発信している。また、運営推進委員や地域の方が協力的であり、地域との交流が増え、ボランティアも多く訪れ、和やかでにぎやかな雰囲気のある事業所である。事業所では音楽療法の一環として職員が弾くピアノにあわせ、童謡、演歌、民謡等を利用者が大きな声で歌い楽しんでいる。また、今年から希望者には認知症対応のくもん学習療法に取り組んでいる。管理者はじめ、職員が認知症ケアに真摯に取り組んでいるのがうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の評価結果を全職員で検討し、家族等への報告、職員を育てる取り組み、本人と共に支えあう関係、思いや意向の把握、食事を楽しむことのできる支援等は改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 前回の評価結果を踏まえ、日頃のケアを振り返りながら全職員で自己評価に取り組み、全体的には管理者とユニットの責任者が中心に総括して作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5） 概ね2ヶ月に1回定期的に開催しており、地域包括支援センター職員、町内会役員、地域住民、家族代表等が毎回参加し、内容は事業所の行事報告や利用者の状況、地域の行事等への参加をはじめ、災害時や夜間火災への対応等を協議している。又、この地域は過去に水害があったので、地域消防団と水害時の協力体制についても話し合っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族へは毎月定期的に利用者の状況を報告している。家族の面会は多く毎日訪れる方もいる。状況報告の際や面会時等あらゆる場面を通じて家族の意見を把握するよう努めている。また、第三者委員（町会代表）を通して苦情や意見の把握をしており、出された意見は運営に反映させる体制となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 町内会に加入しており、事業所の行事等を2ヶ月に1度発行の広報誌で知らせている。ボランティア（民謡、絵手紙教室等）は数多く受け入れており、利用者の楽しみとなっている。また、保育園とは定期的に交流しており、事業所内での芋ほりでは収穫したさつまいもを蒸かして園児と食べ、なごやかな交流の場として定着している。地域の行事へ積極的に参加しており、地区の老人会が開催するいきいきサロンにも毎月数名が参加している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「地域の人々と共にできる限り自立した生活と家庭的な環境の下で心豊かな生活の支援」をうたっており、地域とのつながりを重視したものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所に掲示し、管理者が日頃のケアの中で職員へ意識付けをしており、全職員で共有している。職員はそれぞれ理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、ボランティアの受入や地域の行事には積極的に参加している。運営推進委員を通して地域の理解と協力が得られ、地域に広く認識されてきている。また、保育園児との定期的な交流や、隣接する畑の所有者から野菜の差し入れ等があり、日頃から地域との交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を全職員で話し合い、出来ることから改善している。評価の意義や重要性については、全職員が理解しており、日頃のサービスを振り返りながら自己評価に取り組み、サービスの見直しと向上に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の代表者には特に運営推進会議の意義や役割が認識されており、協力的である。毎回充実した内容となってきたことが記録からうかがえる。災害対策・事故対策・ターミナルケア等についても議題とし話し合われている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者が毎月利用者一人ひとりの近況を書き、行事の際の写真とともに送付している。医療機関の受診状況、金銭出納帳のコピー、領収書も同封しており、職員の異動についても知らせている。また、利用者一人ひとりの思い出ノートを作成し、面会時に家族へ報告できるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時、状況報告等の際に家族からの意見の把握に努めている。苦情等の対応については第三者委員会を設置している。また、出された意見は運営推進会議や職員会議で話し合い対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は半年に1度1名ずつのユニット間の異動のみである。常にユニット間の交流があるので、異動についての利用者の動揺は少ない。離職による異動については利用者の動揺を最小限にするよう努めているが、離職者は少ない。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会には積極的に交代で参加している。資格取得については事業所として支援しており、資格取得後は待遇に反映させている。今後は職員の経験や能力に応じた育成計画について法人内で検討されるとさらに良いと思われる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会の意見交換等で積極的に交流をしている。また、他の事業所を相互に訪問し交流しながら良い点を学びサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なことを教えてもらい支えあう生活を実践している。着付けの先生だった利用者から誕生会や七夕等行事のたびに着付けをしてもらい皆で楽しんでいる。また、習字の得意な方にはチラシ等を書いてもらっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を重視し十分に話を聞き、個人別ノートに記録するなど意向の把握に努めている。また、気づきメモを利用したりセンター方式を取り入れ、その人らしい暮らしが出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者の状況を踏まえ家族、かかりつけ医、管理者、計画作成担当者、担当職員等で話し合い利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃から利用者の思いや状況を把握し、定期的に介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状態の変化に応じて、随時新たな介護計画を作成している。		解決すべき課題については、より具体的に表現するとさらに良いと思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族が対応しているが、状況によっては職員が同行している。家族、職員間での受診後の情報共有の徹底をしてる。また、協力医療機関は24時間対応可能で、月2回の往診が実施されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として重度化や終末期の対応方針を定め、現在まで1名の看取りを行っている。ターミナルケアについては不安を感じている職員もいる。	○	重度化や終末期の対応方針が確立されており、すでに看取りを実施しているので、さらに勉強会や話し合い等を実施し、ターミナルケアに対して職員の不安を軽減するよう取り組まれることが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員がプライバシーの保護について十分理解し、個人の尊厳に配慮した対応を実践している。ファイルの管理など個人情報の保護についても秘密保持の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの体調や思いを大切に外出支援しており、利用者中心の生活支援をしている。意思表示が困難になってきている利用者も多いが、表情やちょっとしたしぐさを見逃さないよう心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立となっており、利用者と職員は一緒にゆっくりと食事を楽しんでいる。食事風景はとても和やかで職員との信頼関係がうかがわれ、ほほえましい雰囲気であり、利用者同士も会話を楽しんでいる。また、食事の準備や食器洗い等できる人が職員と一緒に自然に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望（決まった時間に入る。毎日入る。長風呂。一番風呂等）にそった入浴の支援をしている。入浴拒否や利用者が不穏な状態のときには、それぞれのペースに合わせた支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者の趣味や得意なこと（絵手紙、習字等）を続けられるように支援している。事業所内の畑での野菜作りも利用者の楽しみとなっている。また、くもん学習療法を始めた利用者もあり、新しいことも取り入れ実践している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者の希望により散歩やドライブに出かけしており、食材の仕入れには利用者が順番で同行している。また毎月、お花見、紅葉狩り、四季の里、公園散策、温泉入浴、外食等外出の機会を多く企画し全員で出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を認識しているが、現在不穏な利用者があり、1ユニットのみ玄関の施錠をしている。		不穏な状態が解消してきているということであるので、見守りを強化し鍵を掛けない工夫をされることが望まれる。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難経路の確認、消火器の使い方等避難訓練を実施している。また、月1回あらゆる場面を想定しての防災訓練を実施している。以前水害があった地域なので、地域消防団と災害時等の協力を得られる体制となっている。災害時の食料品等も備蓄している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量は介護記録表に記入するとともに定期的に体重測定等も行い健康管理に役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くソファやテーブルが機能的に配置されている。廊下や空きスペースには椅子が置かれ、利用者が一人や少人数で思い思いの場所で過せるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベットとクローゼットが設置されているが、利用者がなじみのもの（テレビ、炬燵、机、整理ダンス等）を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。布団を敷き和室風に利用している方もおり、居心地良く過ごしている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	グループホーム 敬愛シニアガーデン桜堤
記入担当者名	佐藤 敬

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。